

# 福祉環境委員会記録

令和3年5月10日(月)  
09時59分～11時32分  
全員協議会室

【委員】柳楽委員長、村武副委員長

沖田委員、小川委員、岡本委員、佐々木委員、田畑委員、澁谷委員

【議長・委員外議員】西川議員、牛尾議員

【福祉環境委員会 所管管理職】

砂川副市長

〔上下水道部〕有福上下水道部長、白根管理課長、谷口工務課長

〔金城支所〕篠原金城支所長

〔総務部〕坂田総務部長

【事務局】中谷書記

---

議題

1 金城地域断水防止対策について

2 その他

【議事の経過】

( 開 議 09時 59分 )

柳楽委員長

ただいまから福祉環境委員会を開会する。ただいま出席委員は8名で定足数に達している。

副市長

レジュメに沿って進めるが、冒頭に副市長から挨拶がある。

本日は福祉環境委員会を開催いただきお礼申し上げます。先般4月27日の臨時会議において、令和3年度浜田市水道事業会計補正予算を提出したが、提出に当たり所管である福祉環境委員会への説明がされておらず、ご迷惑をおかけしたことを改めておわびする。

本日説明する内容は、今年1月に金城地域を中心に発生した断水の状況、また今後どのように対策を講じるかについて、現在検討中の内容である。

現在、原因調査のためのアンケート調査を実施しており、集約は6月前後になる予定である。次の冬には今回のようなことがないようにしっかり対応したいため、コンサルタント業者と協議する中で、今福地区への新たな給水タンクの設置により、かなりの確度でこの冬の断水対策ができるのではということであった。本来なら分析結果が出た後で対応すべきところだが、前段として当委員会で説明し、改めて提案したいと思っている。本日は全体的な対策、またタンクの増設の経緯等について説明させていただきたい。

なお私は公務のため途中退席となることをご容赦いただきたい。

1. 金城地域断水防止対策について

柳楽委員長

臨時会議に上程される予定のため、予算審議にならないようにご協力をお願いする。それでは執行部から説明いただく。

上下水道部長

今年1月に金城自治区で給水制限による断水が発生した。市民生活に大きな影響を及ぼしたことを改めておわびする。また4月27日に補正予算を提出したが、所管である福祉環境委員会に説明していなかったため議事を混乱させたこともおわびする。

先ほど副市長が申したように、現在実態把握の調査中である。本来なら調査結果を踏まえて対策を講じるのが順序だが、それでは12月に間に合わない。当面この12月に向けて、今の我々にできる対策に取り組みたい。

まず断水防止対策の全体像と、今福地区のタンク増設について担当課長からご説明する。

工務課長

( 以下、資料をもとに説明 )

上下水道部長

資料4番目の全体スケジュールの一番上、実態把握だが、6月までコンサルタント業務をしている。この後現状の解析などがあるが、これについては、あったほうがわかりやすいので全員協議会の資料に足したい。

柳楽委員長  
岡本委員  
工務課長  
岡本委員  
工務課長  
沖田委員  
工務課長  
沖田委員  
工務課長  
沖田委員  
工務課長  
沖田委員  
工務課長  
沖田委員  
工務課長  
田畑委員  
工務課長  
田畑委員

説明が終わった。予算審査にならないような質疑をお願いします。  
別紙 4-1 に既存と新設の受水槽がある。工事期間が長い、新設するのに山を切る予定があるのか。  
現在ある敷地の面積を少し広げる工事をして、タンクを設置する予定である。  
約 1、2 か月、切土の工事をすると。基礎の位置づけや意味を示すべきでは。  
タンク工事ということで工程表に入れていた。土工事でも契約から工事まで期間を要するので、その辺の説明が不足していた。  
タンク設置以外の方法は検討されたのか。  
別紙 2 にはそこまで記載していない。需要に対して供給を充足させるための方法は何点か考え、その中でこの冬までに対応ができる内容で絞り込んだ。あと 2、3 点、市やコンサルで考えられることはあると思う。  
例えばもっと効率的に給水量が上がる方法などはなかったのか。冬をまたげばタンク設置よりもよい方法がなかったのか。  
実態調査の結果を待って 7 月から解析調査にかかったとして、当然冬に間に合わせるのは難しい。今回は 12 月に間に合わせるためタンク設置をまず選んだ。  
その他の問題として、別紙 2 のフローにある、需要に対して供給が足りていないことをどう解消するのかということになるかと考えている。その方法については、コンサルの解析が終わらず検討に入っていないため、具体的な答弁は控えたい。  
タンク設置に当たって一番思うのは、水量が確保できる 24 時間での、例えば止水班の勤務シフトマニュアルなどは今から作成するのか。  
止水班は上下水道部の職員だけではなく、市を挙げての対応とする。対応が必要になった時点でどれくらいのエリアで何人・何班必要かで、上下水道部と他の部署も含めて班をつくり、台帳を持って現地に行くことになる。そのもとになる対応マニュアルをきちんと整備していく。  
仮にタンクを設置して 24 時間という時間を確保することが一番の目的であるなら、24 時間の使い方が最も重要になる。そうすると 24 時間のうちの日中 8 時間で全て対応できるのか、それとも交替する体制を組んででも 24 時間でやるのかという話になってくる。そういう編制ができればまた委員会に報告いただきたい。  
何時間で対応するのかは状況によるだろう。1 月の調査については 18 時間程度の勤務状況だった。今後は交替制や従事する時間も含めてなのか体制を組んで、またご報告したい。  
既存の 500 トンタンクはいつ設置されたものか。  
記録では昭和 56 年設置である。  
合計千トンになる。断水の一の原因は個人管理部分の給水管か

- 工務課長 らの漏水 325 件であり、そこはどのような対策をしているのか。
- 田畑委員 この 1 月の分についてはそれぞれ対応して修理が終わっていると思うし、上下水道部に修理完了の報告を受けているものもある。これを受けて、市が給水申請を受けて審査する段階で、凍結防止対策についてさらに検討してもらえないかと水道業者から伝えていただくように現時点では対応している。
- 田畑委員 さらにその先ということでは、現在では明確に何をどうすることになっていない。現在は施主に働きかけている段階である。
- 工務課長 タンク増設も必要だとは思いますが、個人管理部分の漏水をきちんとしておかないと。個人管理部分にまで上下水道部が手を出さねばならないのか。それは個人の責任として、水道メーターまでは市が責任を持つ、宅内については個人の管理と強く打ち出さないと、もっとひどくなることも想像できる。金城全体でどのくらい空き家があって、その水道メーターがとめてあるのかどうかを精査しないと。出口を整理するべきだと思うがどうか。
- 田畑委員 言われることも重要である。個人の責任で管理する部分ではあるが、上下水道部が申請を受けて認可している以上、市に全く責任がないとは認識していない。今後のものについては凍結防止対策の検討を勧奨している。既存の家については、また凍結して壊れるところもあると思うが、この 1 月のときのように広範囲での断水や給水制限にならないように、作業時間を確保することで、市職員がこの時間の中で運転ができるように対応したい。
- 工務課長 今年 1 月に漏水によって断水した個人管理部分の 325 件は、もう完全に手を加えているのか。
- 田畑委員 325 件全て修理したかどうかは確認していないが、現時点では修理した情報も入っている。利用している人は必要な対策を講じているであろう。
- 工務課長 利用してない空き家もあろうが、なぜ元栓を切らないのか。空き家でも水道の基本料金を支払っているのか。
- 田畑委員 休止届をしていない方は、使用量ゼロでも基本料金がかかっている。
- 工務課長 すると休止届を出さない限り使用料金がかかることを周知しないと。それらは未収金もあるのでは。休止届をしていない空き家で凍結による漏水が発生し、水位が下がって断水したという理屈なら、ここを直さないとタンクを千トンにしても間に合わない事態にもなりかねない。
- 田畑委員 まず 325 件全てが留守宅ではない。使用量が大変少なくても開栓し使用の意思表示をされているお宅がある。以前ゼロトンリストの話をしたが、ゼロから 5 トンくらいしか使っておられない件数を以前に集計し、全体で 4485 件ある。そのうち金城地域は 229 件あった。この中で調査し、凍結破損が確認できたのが 6 件だった。これが 325 件の中に入っている数字になる。したがって今回は空き家よりも住

- んでいる家のほうが多かった。空き家を閉めて回るのも一つの方法で、この少ないところをどうするのかは今意見を伺っているところである。多くのところは住んでおられて一旦閉めて直さないと生活できないので、修理をされている。
- 管理課長 空き家で漏水していた分は未納になるのではというご意見があったが、それは今現在ないと認識している。修繕も県外の方から申請がある。使っていない方には小まめに休止届を出していただくよう広報をしていきたい。
- 岡本委員 新旧のタンクはどのように運用されるか。タンクへ送水して、それから各戸へ配水するのに、新設のものには2系統あり、弁が3つあるが、どういった使い方をするのか。また、凍結になったときに、均等に下がっていくのか、1か所がなくなってから次にとなるのか。
- 工務課長 別紙 4-1、新しいタンクは真ん中に仕切りがあり二つのタンク、旧タンクが一つで三つになる。運転の仕方だが、三つを一つずつ使うこともできるし、三つ同時に水位が変わるような運転もできるようになっている。
- 凍結時には、三つを一つのタンクとして同じように水位が上下するような運転をする。平常時は1日どれくらい使うか。現在1日当たり500トンで運転しているが、足りるような運転の仕方、全体を使うことも一つを休ませることもできるので、一番よい運転方法を選択することになる。この二つのタンクの間には動力はなく、自然に入ってきて、管と管がつながっているので、一緒に水位が上下する構造となっている。
- 岡本委員 千トンになっても使い切れれば終わりだというのは私も同意見である。供給できなくなる時間や水位を把握しなければいけないが、その方法はあるのか。
- 工務課長 タンクには水圧ではかるものと電気的にはかるものの水位計がある。バックアップを含めて二つ入れてある。新しいタンクには2基あるのでそれぞれにつければ全部運転できる。もう一つに流量計がある。流量計は、タンクではなく、タンクから出た土地、道路などの中にある。漏水があった場合には、通常の水量が夜間で平均8トンくらいしか出ないのが、ある日突然15トンくらいになったら漏水かそのほかの原因を疑う。
- また本管で爆発的に漏水が起き、異常を感知すると警報メールが24時間私に届くようになっている。異常を感知すると、まずは人海戦術で調査することには変わりはない。
- 岡本委員 既存タンクの500トンが濁水したことを上下水道部は当然把握していて対応していたが、濁水が早過ぎて皆に供給できなくなったというのが現状か。
- 工務課長 1月は、500トンのタンクの水位が下がり始めて、漏水の可能性を持って調査したが、調査してとめていくよりもタンクの水の減りが早く、制限を行った。次はそうならないよう時間を確保し、上下水

- 道部以外の職員も含めて人海戦術で漏水をとめて回り、全域の制限、断水を抑えていきたいという計画である。
- 岡本委員　　もう 500 トンあれば、チェックしたり対応できる時間が確保できるから、この機に予算づけして対応しておきたいということか。
- 工務課長  
小川委員　　そのとおりである。
- あの程度の寒さで断水が起こるといことがないようにするのが最終目標であろう。コンサルタントの業務は 8 月半ばまでとなっているが、それを受けて抜本的な対策が検討されると思う。さまざまな要素を含む再発防止策が最終的に策定され、示されるのはどのくらいの時期か。
- 工務課長　　別紙 3 の工程表からいくと、実態把握してその状況を解析するのが 8 月中旬までである。その解析結果をもって次の対応策をどうすべきか検討に入る。8 月の結果をもって、その次のことの説明をさせていただきたい。
- 小川委員　　コンサルタント業務の結果を受けてということで、あとは上下水道部で対策を検討されるのだろうが、抜本的な対策、再発防止策をつくるまでの間は、コンサルと協力しながら策定していくのではなく、上下水道部だけで結果に基づいて検討されるのか。
- 工務課長　　この工程表では 8 月までの業務委託になっているが、この結果を受けて次の対策がどうなのかといったことになる。何らかの検証がコンサルから出る。それを受けて次の検証、解析等が必要か判断して、何らかの施設整備などの対応が必要となると、内容によっては厚生労働大臣の認可を受ける場合もあるので、そうなるとそれなりの資料をつくることになる。それはこれまでも上下水道部の職員だけではつくっていないので、8 月の結果を受けてその状況を報告する中で、その後はどういったことがあるのかも報告したい。
- 小川委員　　つまりこの冬をなんとか乗り切るようタンク増設をする一方で、抜本的な対策、需要と供給のことも含めて取水からタンクまでの経路、全体のハード面についても検討されるのであろう。また、漏水や断水になると困るので何とかしてほしいという市民の要望も強いと思うが、一方では家庭での凍結防止対策への認識も今まで以上に図る必要がある。そうした市民意識の醸成も当然対策の一部に入ってくるのだろう。そうしたことを含めた抜本的な改善策を市として打ち出すのはいつかを聞いたかったのだが。
- 工務課長　　市民への協力を含めたものについては、6 月に調査が出て、それを踏まえて 8 月に調査結果が出るので、8 月にまずは状況を説明したい。そのときにどこまでの結果が出ているかは不明だが、その時点でのものをまずは説明する。8 月時点での結果によってさらに検討、対策が必要であればそこも対応していく。個人にお願いできることについては、7、8 月に説明に伺いたい。その状況については、事前にこの委員会で報告したい。
- 澁谷委員　　浜田市に水道事業のスペシャリストの職員が何名いるのかと疑問

に思う。1月の際に漏水が根本的な原因だと説明されたが、それに対し同僚議員から幾つかそれ以外の原因もあるのではと指摘があった。それに対して上下水道部としての明確な判断ができない。コンサルが調査しなければ結果が出ない。幾つか考えられるなら列挙できるのではと思うのだが回答が全然ないままに、1億5千万円のタンクをつくるという。これは税金だから応急手当だとできる。今の答弁だと、応急手当の後に根本的原因があれば、さらなる追加の負担が発生するという理屈である。地方自治法の最小の経費で最大の効果を上げるという基本的スタンスを感じられない。担当部は原因を何だとかんではいるのか、まずはそこをはっきりしていただきたい。

5年間に同じ地域で3回も凍結被害が起きていて、ようやく対応していることが極めて問題である。それに対して今ようやく応急手当をすとは何事か。少なくとも最低限度のことをして、上下水道部は原因が何であると判断しているのかは明確にしてもらわないと、臨時会議で判断のしようがないし議長団がこれを受けるとは思えない。これで何を議論しろというのか。

工務課長  
澁谷委員

原因は資料1にあるとおり、水道管の凍結破損に伴う漏水である。

同僚議員の指摘は関係ないということか。これまでも、金城へ水を送るのに黒川町からのポンプアップによることに問題があると多くの議員が指摘してきた。波佐の水源や旭町から引っ張ったほうがよいという意見もあった。そのときは、例えば旭町は矯正施設に大量の水が使われるのでできないといった答弁だった。それらは全く関係ないのか。ただ漏水だけの問題であるなら、寒冷地などの冷却に強い管を1件につき10万円分ずつつけば3千万円で済む。漏水が原因なら少なくとも5千万円で済み、わざわざ1億5千万円のタンクを据える必要はない。そのレベルのものを19日に全議員を前に提案すれば前回と同じ結果になるだろう。

上下水道部長

繰り返しになるが、今回の断水の原因は、上下水道部では漏水による配水量の増加と判断している。24時間程度の給水制限をしたが、その間で漏水の修繕が進み、配水量が通常に戻ったことからそのように判断した。全員協議会するときであったか、議員の方々から他の原因として考えられることがあるのではと意見をいただいた。そのことについては、断水に至る直接の原因とは考えていないが、断水の時間が伸びた、あるいは出なくなった地域が広がったという意味での影響はあったかと思う。

澁谷委員

原因分析に時間がかかり次の冬まで対応が間に合わない可能性がある」と明記されている。市民の皆さんに安全安心に水を提供するためといえば、幾らお金をかけてもつくりたくないとならないという理屈があるのかもしれないが、本当にこの応急手当のために1億5千万円のタンクをつくる必要があるのか。1年間対策を練って本当の原因がはっきりしたら、その対応のための予算の追加投入になりかね

ない。今回とまた違った原因があったのでそこにまた対応するということも考えられる。近年、浜田市は追加予算の要求案件が頻繁にある。必要だと言われれば議員も可決しているが、これは最善の政策なのか極めて疑わしいし、審議に値する資料なのか。納得できる資料ではない。

上下水道部長

この計画が応急的なもの、その場しのぎだとの指摘だが、この冬に向けてできること、またその中で効率的なことで検討して、このタンク増設を提案している。決して仮設、応急ということではなく恒久的な施設として整備する。また、運転の状況等によって、遊休施設になるということではなく常時使うもの。先ほど工務課長が説明したが、追加の水の供給ができるかどうかということで雲城地区はタンクをつくらずに供給量を増やす。今福については、当面できるのは配水量に見合う貯水量の確保ということで、タンクを増設する。

今後どうなるかというのは、実態調査を受けて検討しなければならないが、仮に入る量を増やすにしても、今福地区には千トン程度の貯水量が必要との判断で今回提案している。

佐々木委員

やりとりを聞いて、市民感情的には納得が難しいことになりつつある感じがする。フローの説明で需要と供給の問題の対策ということで、今回は需要でなく供給を増やす。この冬を乗り切るためにはこの対策でしかないという判断での提案だと思う。平成28年には大規模な漏水があり、その時にも漏水をどうするか、需要、つまり使用と配水をどうするかで多くの議員からの指摘もあり、これについてしっかり対応していくという答弁が再三あった。よくある蛇口を巻くだけではなく、水を出すとか抜本的な漏水対策をしていく。そういったことがこれまでどの程度なされてきて今回のタンクの増設ということになったのか。先ほど再三指摘があったように、この需要に上下水道部がしっかり対応していれば、もしかするとタンクをつくらなくて済む可能性があるかもしれない、というところが今回の一番大きな提案の問題ではないか。そういったところをいかに市民の方が理解できるか。金城地域などの当事者は、とりあえずタンクはつくってほしいという気持ちにはなるであろうが、平成28年以降からの経緯を見ると、あまりにも後追いのように思える。

上下水道部長

28年当時のことは明確にわからないが、今回のことを踏まえて過去の記録などを見直している。28年時は凍結がひどかった。凍結させないための対策としてケーブルテレビの番組などで防止策を広報したり、検針時に凍結防止の取り組みのお願いのチラシを配布している。今年度はチラシにQRコードを掲載し、凍結防止の具体的な方法をインターネットで見られるようにといった取り組みをしている。また先ほどのゼロトンリストを打ち出して各支所を中心に対策をとっていくし、寒波が到来するときには事前に防災無線などでお知らせするといった取り組みを続けてきた。しかし残念ながらこの

1月に同じような結果になってしまった。私どもとしては、第一義的には市民に凍結を防いでいただくことが最も大事だというのは変わっていない。それが十分でなかったということであろうから、さらに市民への協力依頼やPRに取り組んでいく。

しかし結果として凍結、漏水を防げなかったことを踏まえ、自然現象である寒波が来ればある程度の凍結があるのはやむを得ないという前提に立ち、それでも断水を起こさないためにはどうしたらよいかということで、今回の提案をしている。

市民への周知としては、今までは凍結を防ぐことしかお願いしていなかった。市の止水班がとめて回るのもあるが、市民の皆さんにも積雪前に止水栓の位置を確認していただき、凍結が起こったら、その後漏水のおそれがあるので止水栓をしめていただくようアピールしていきたい。

また、漏水、凍結防止の状況については、今回だと寒波が発生した時分から皆さん水を出されている。通常、水道タンクは日中の使用量が多く、夜間に使用量が減ったところで水位が戻ることの繰り返しだが、今回、夜間配水量が減らない部分があったのは、夜間に水を出して凍結を防止していただいたからと思う。結果としては、それ以上の寒波であって凍結、漏水が発生したと認識している。

佐々木委員

一定程度の漏水はやむを得ないでよいのかという気がする。やり切った上でなら仕方ないが、身構え方としてやむを得ないからというようでは、目的は達成できないのでは。

ケーブルテレビやネットなどや、また寒冷地ではもっと細かくされてきたと思うが、ケーブルテレビやホームページだけでなかなか周知ができないのはほかの事例を見ても明らかである。こういった重要な案件については、寒冷地については特に細かい対応をしないと、全市同じような対応では対策ができてこないのでは。

工務課長

各地域によって気温が下がっても経過が違うのは事実である。地元の意見、地域協議会の意見、実態調査の中でも自由意見の記載をいただくようにしている。それらを踏まえて今年の冬前に金城の対応をする。ほかの地区についてもどうなのかも含め、資料の4番目、全市を挙げて各部署・支所と連携して、対応の仕方も含めて相談しながら対応したい。これまで足らなかったことをさらに連携して取り組んでいきたい。

佐々木委員

本来28年の後に、抜本的な漏水対策に各支所含めて市民に迷惑をかけない、経費も使わないような気持ちで取り組んでこなかったことが、この5年後に現れている。タンクをつくらないとこの冬がどうなるかということなので、これを認めなかったら我々の責任もあり、非常に難しい案件だが、もとをいえば、5年前の際にこういった対応ができなかったというのが原因にあると思うので、そこは指摘しておきたい。

工務課長

結果としてご指摘のとおりである。全体的な対策を皆に報告し、

遅ればせながらこれに対応したいということなので、ご理解とご協力をいただきたい。

田畑委員

凍結によって漏水したから断水したのだろう。ここに出ている数字を全て解決した上でタンクの工事やコンサルなど関連の業種に発注するための1億5千万円の補正予算を認めてくれということであろう。330件余りの漏水を全て解決したのだと。だから今後凍結しても断水しないような施設をつくるためには500トンのタンクが必要だと。この330件余りの漏水をきちんととめてしまえば500トンのタンクでも間に合うのではと予測する。反対する気持ちはないが、そうとはいえ市民の皆さんへ安心安全な水を供給しようとしたら、ここを解決しない限り、12月までにやりますということではこの話はうまく進まないと思う。現状はどうか、終わったのか。

工務課長

325件の漏水修理について、何件あったかは事業者から報告を受けているが、どこでどんな様子かまでは報告を受けていない。今回の実態調査で金城地域中心だが、凍結の有無を聞いている。個人宅の修理なのでどのように直ったかは、全部は出てきていない。修理して申請があったものについては把握している。

私どもが施設管理をしている監視システム上の配水流量では、1月10日前後は非常に多くなっていたが、その後1月末にはほぼもとどおりの水量まで減っているため、そういうことをもってエリアとしての水量がもとに戻っていると認識している。

田畑委員

つまり業者から連絡があったものは把握できているが、報告がないものは把握できていないと。では500トンのタンクが増えても、同じような結果になる可能性もある。上下水道部と支所で役割分担を定めて330件余りをきちんと解決した上でやるなら話はわかるが、確認が取れていないところに1億5千万円出せと言われて、はいと答える議員はいない。

小川委員

こうすれば今後凍結や漏水は起きないと自信を持って提案できる中身を本当は出してほしい。部長や課長もそうだが何年かで異動があるが、スペシャリストができるような人員配置や、例えば視察や研究をする余裕がないと難しいのではないかと。上下水道部の人員配置や機構の問題があろうが、止水班をつくるにしても、上下水道部だけの人員では舞い切れないというのがあるなら本末転倒だという気がする。人員配置も含めて、技術継承ができるようなことも併せてやっていかないと、今までの経験を糧にして、どう上下水道部の今後の方向性に持っていくのか、特に断水対策についてはこうだというのをつないでいけるような人的配置を考えた上での機構の運営をお願いしたい。

総務部長

私は昨年3月までは上下水道部管理課にいたので、今日は出席させていただいている。1月の断水は市民に迷惑をかけた。また、今回の提案については手順や説明の仕方など、いろいろご迷惑をおかけして申しわけない。

人員配置は、かねてより上下水道部は水道技師の採用もしているが、今は募集をしてもなかなか応募がない状態で、ノウハウを持つ職員が高齢化してきている。例えば止水についても班編成など仕組みをもう少し考えようと話している。また職員の現場対応にも限界があるので、民間の力をどのように借りるべきかも含めて、先ほどの大きな計画の中ではいろいろなことを織り込んだ上で、市民の生活が不安にならないように取り組まなくてはならない。

そういった中で、市の人員配置は、上下水道部は水道技師と管理や計画などの業務をする一般職、土木技師もいる。その中で人事交流もするがスペシャリストがいることで初めて安心感が生まれる。こういう機会に改めて考えないといけない。

支所との連携もあるが、全庁的に取り組むことが一番大切である。大きな災害に限らずこうした凍結災害についても上下水道部のみならず、予算的には水道料金で賄っているものなのでそこで完結するのかというのはあるが、全庁を挙げて取り組むことを再度整理していきたい。

村武副委員長

全庁的に対応していきたいとのことだが、沖田委員からも、タンクをつけた際の24時間の対応の仕方に大きな課題があり、そこを考えねばならないのではという指摘があった。そこをしっかりとっていただきたい。

また、タンクをつけることは応急的な手当てであるとおっしゃったし、そう感じるのだが、今年の冬のためだけにこのタンクをつけるのか。そうであればこの予算が本当に妥当なのか。

工務課長

24時間の対応については先ほどのとおりである。タンクについては仮設ではなく、構造や材料を含め本設である。今年の冬に間に合った上で今後も使っていく。今のタンクは設置から40年弱経過している。コンクリート製なのでいずれ内部の修繕を行う必要が出てくる。そのときも今回増設するタンクを利用しながら有効にタンクの改修が行える。それは今回の主ではなかったが、今後本設として使っていける、そのための運転の方法で使える形にしている。この冬だけのため、来年以降は要らないというのではない。

村武副委員長

現在、調査やアンケートをされているが、もう少し早い段階で取りかかっていればもっと早く対応を考えられたのでは。そんなに難しい内容のアンケートではないので、スピーディに対応しないといけないがいかがか。

工務課長

結果として4月30日に発送したので遅いと思っている。なぜ遅くなったかは説明しないが、今後はこうならないようにしていきたい。いただいた回答は速やかにデータや地図に落とし、次の対応につなげていきたい。

村武副委員長

このアンケート調査で住民がどのような対応をされていたかわかると思う。そこから市民ができる対策をしっかりと進めていただきたい。ただ言うだけでなく本当に丁寧な説明が必要になってくる。ま

ちづくりセンターなどと一緒になってやっていく必要がある。

5年前も大きな凍結があったが、そこからの対応策が考えられていなかったのか。

工務課長

5年前は全市的であり、金城を含めて起きたその後から市民への周知などを行ったが、結果的に3年前に再度、主に金城の雲城地域で発生したため、雲城地域の原因への対応も行ったが足らなかったのが現実であり、今回さらに発生した。何もしていないわけではないが、対応によって全てがクリアできてなかったことを反省し、今回の報告と提案をしている。

村武副委員長

本気でやってはいるだろうが、対策が不十分だったから今回のようなことになっている。住民生活にかかわるところなので今後さらにしっかり進めてほしい。

工務課長

これから十分対応できるように、皆さんが必要とされること、されないこと含めてまたきちんと説明してご理解いただくようさらに取り組みたい。

柳楽委員長

このタンクができることで、例えば高い位置に家があるところで水が出にくかったと聞いたが、給水制限を一定程度しなくて済む対策になるのか。

工務課長

24時間の作業時間を確保するため、同じようなタイミングでの給水制限にはならない。先日給水制限によって出なくなったところは、その間に止水することによって、そういう事態にならないような対策を取るものである。

柳楽委員長

漏水や破損により出なくなったのではなく、高台にあるため水が来なかったことへの対応もしっかりやっていただきたい。これまで凍結災害があつてからいろいろな方法を考えられ、市民にできる対応策は示していただいた部分もあると思っている。

また私は金城の住民だが、防災行政無線を使ってあらかじめ対策をするようお願いもされている。それ以上の災害が来る可能性が今後もあるだろう。今回も長期にわたってマイナスの気温が続き、なおかつ風があつたので余計に凍結した。それらを考えるとこれまで以上のことが起こる可能性があると思う。これまでのいろいろな議論の中でも各戸で電熱線など水道管凍結防止の方法があると聞いているし、そういったことも含めて市民ができるいろいろな方法を示しておいていただきたい。

工務課長

それも含め、7、8月の時期にまずは金城地域から、報告とできる対策を含めて説明し、対応いただければと思う。

柳楽委員長

ほかにないか。

( 「なし」という声あり )

では議題1を終了する。

## 2. その他

柳楽委員長

執行部から何かあるか。

( 「なし」という声あり )  
委員から何かあるか。  
( 「なし」という声あり )  
では、以上で福祉環境委員会を終了する。

( 閉 議 11 時 32 分 )

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

福祉環境委員長 柳楽 真智子 ㊞